

目次

はじめに・前川和彦

第 15 回放射線事故医療研究会開催のご挨拶・鈴木 元

基調講演 緊急被ばく医療の現状と将来の展望 鈴木 元 (国際医療福祉大学クリニック) —— ・ 1

SUMMARY	1. わが国の緊急被ばく医療の歴史／ 2. 福島原発事故における緊急被ばく医療で達成できたことできなかったこと／ 3. 今後の緊急被ばく医療の展望	1
原子力防災・緊急被ばく医療体制の概観		4
原子力防災上、転機となった事故・災害		4
現在の被ばく医療体制		4
緊急被ばく医療の目標、指標の再確認		5
緊急被ばく医療の目標 (1)		5
目標 (1) に関連した指標と対策		6
緊急被ばく医療の目標 (2)		6
目標 (2) を実現するための指標と対策		7
目標 (2) に関連した測定指標		7
緊急被ばく医療体制—避難所での活動		7
体表面汚染密度—スクリーニングレベルの意味		8
推定実効線量—スクリーニングレベルの意味		9
福島原発事故の緊急被ばく医療		
—何ができて、何ができなかったのか		10
福島原発事故における線量推定		11
福島原発事故での住民防護		
—なぜ安定ヨウ素剤は投与されなかったのか		12
緊急被ばくスクリーニング		13
住民の放射線防護レベルは適切であったか?		13
小児甲状腺の放射性ヨウ素測定		14
安定ヨウ素剤服用指示の問題		14
IAEA 新防護体系にみる安定ヨウ素剤指針		14
防災要員の放射線防護・緊急被ばく医療		15
防災要員の安定ヨウ素剤服用		15
防災要員に対する被ばく医療		15
福島原発事故における緊急被ばく医療の教訓は?		16
緊急被ばく医療体制の将来はどうあるべきか		16

シンポジウム 「東京電力福島第一原発事故時の緊急被ばく医療」

1. 緊急時住民対策の概要

金谷泰宏 (国立保健医療科学院) —— ・ 17

SUMMARY	1. 避難指示および情報伝達／ 2. 放射能除染／ 3. 安定ヨウ素剤の内服／ 4. 災害時要援護者等の支援	17
対応の推移		20
健康相談の推移		21
被ばく者の受入れ態勢		22
フランスでの放射線防護態勢		22

2. オフサイトセンター等での活動—複合災害における緊急被ばく医療—

富永隆子（独立行政法人放射線医学総合研究所）——・23

SUMMARY 1. 大熊町 OFC における活動／2. 福島県庁内 OFC に おける活動／3. まとめ	23
大熊町オフサイトセンターでの活動	24
避難区域の拡大	25
福島県の被ばく医療機関	26
3月14日の負傷者	26
3月15日からの医療班の活動	26
一時立入りオペレーション	26
傷病者の搬送体制と情報の伝達	27
8月時点での搬送体制	27
緊急被ばく医療における課題	28

3. 小児甲状腺モニタリング

鈴木敏和（独立行政法人放射線医学総合研究所）——・29

SUMMARY	29
避難指示の経緯とヨウ素 131 濃度分布	30
小児甲状腺モニタリングの経緯と方法	31
結果	33

4. 飲食物の放射能モニタリング 樺田尚樹, 寺田 宙, 山口一郎（国立保健医療科学院）——・35

SUMMARY はじめに／1. 暫定規制値の設定とその考え方／2. 分析 法／3. 飲食物からの検出状況／4. 母乳中の放射性物質 濃度評価／5. 食品安全委員会の生涯にわたって 100mSv の評価案	35
飲食物摂取制限に関する指標	37
制限線量の考え方と分析法	37
各食品の放射性物質濃度の検出状況	38
牛肉中の放射性セシウムスクリーニング法	39
ベクレル (Bq) とシーベルト (Sv)	40
飲食物の内部被ばく線量評価	40
母乳中放射性物質調査のまとめ	41
食品安全委員会の厚労省に対する答申	41

5. 緊急時環境モニタリングと個人被ばくモニタリングの実施状況について

百瀬琢磨（独立行政法人日本原子力研究開発機構）——・43

SUMMARY 1. はじめに／2. 環境モニタリング／3. 住民および作 業者の個人被ばくモニタリング	43
環境モニタリング	45
空間線量率	45
大気中放射性物質濃度および降下塵	46
住民および作業員の個人被ばくモニタリング	49
住民の線量評価	49
住民等のスクリーニング基準について	49
まとめ	50

6. 事故初期のサイト内における防災作業者の健康管理

衣笠達也 (三菱重工業株式会社 神戸造船所) —————・53

SUMMARY 1. 発表要旨 / 2. 今回の事故の被ばく医療の特徴 / 3. 事故初期のサイト内医療 / 4. 結語	53
原子力災害時の医療構図 (1)	54
福島第一原子力発電所事故初期経過	54
福島原子力事故の特徴	55
初期医療 (事故発生後約2か月) とのかかわり	55
初期 (事故発生後約2か月) のサイト内医療	55
初期の作業者の健康および放射線管理	55
初期の主なサイト内傷病者	56
原子力災害時の医療構図 (2)	57
緊急被ばく医療の今後の課題	57

7. 福島医大被ばく医療班の取り組み

長谷川有史 (福島県立医科大学附属病院) —————・59

SUMMARY 1. 発災初期：複合災害による病院機能低下 / 2. 緊急 被ばく医療班の立ち上げ / 3. 原発作業員への緊急被ばく 医療 / 4. 公務危機介入者への健康管理支援 / 5. 原 発周辺地域住民への支援 / 6. まとめ	59
複合災害による病院機能低下	60
緊急被ばく医療班の立ち上げ	60
原発作業員への被ばく医療	62
公務危機介入者への健康管理支援	64
原発周辺地域住民への支援	65

8. 日本放射線技師会の福島での取り組み 諸澄邦彦 (埼玉県立がんセンター)

中澤靖夫 ((社) 日本放射線技師会) —————・69

SUMMARY 1. はじめに / 2. 放射線サーベイヤー派遣の経緯 / 3. 緊急被ばく医療に対する本会の考え方 / 4. 福島県内に おける放射線測定の実績報告 / 5. まとめ	69
放射線サーベイヤー派遣の経緯	70
放射線サーベイの活動	71
検案前遺体への放射線サーベイ	73
緊急被ばく医療に対する本会の考え方	73

パネルディスカッション 「将来の緊急被ばく医療の課題」 —————・77

座長 前川和彦 (フジ虎ノ門整形外科病院)・鈴木 元 (国際医療福祉大学クリニック)

現場対応における「実効性」「対応者の安全と安心」 「被災者の防護 (基準)」	77
避難所活動 (スクリーニング, 除染, 登録)	77
安定ヨウ素剤	79
原発サイト内・周辺の医療活動と被ばく医療	81
メンタルヘルスとリスクコミュニケーション	82
ワンボイスの課題	83
「情報共有」「意志決定」それを可能とする「組織」とは?	85
◆次期大会長挨拶 明石真言氏	86

<資料>

1. 福島原発事故後の環境汚染とどう向き合うのか？

文責 鈴木 元 (国際医療福祉大学) ————— • 87

はじめに	87
環境の除洗という幻想	87
チェルノブイリ事故後の教訓	87
最後に	88

2. 環境汚染と農業対策—チェルノブイリ事故後 15 年における評価と教訓

翻訳 鈴木 元 (国際医療福祉大学) ————— • 89

推奨される除染技術	89
農業対策	89
早期	90
後期	91
集約農業生産における対策	92
土壌処理	93
汚染土地で育てる飼料作物の変更	94
清浄飼育	94
Cs 結合体の投与	95
集団生産における対策の有効性	96

放射線事故医療研究会入会申込書 ————— • 98